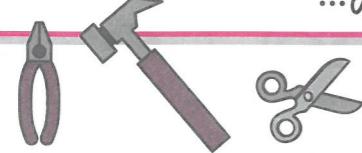




# コロナ禍での活動を一部紹介します

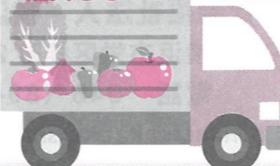
## 事例1

障害者地域作業所から…販売の機会が制限され、創作意欲の低下、工賃の原資となる売り上げの低下になってしまふ…の意見



何か方法がないだろうか…

移動販売と一緒に場所で販売してもらおう！



すでに実施している移動販売の場所に地域作業所が一緒に販売できるよう、自治会・町内会や企業の協力で実施することができました。

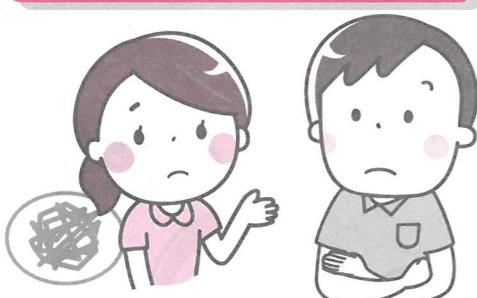
**作業所の声** 短時間で多くの方が来て効率がいいです。また、地域住民の方とお話しすることができ、障害者理解にもつながっています。

**住民の声** 障害者地域作業所を初めて知ることができました。普段いけない場所なので、こういった場所に来てもらえると色々な物が購入できうれしいです。

**企業の声** 相乗効果で両者ともたくさんの住民の方に知ってもらえるのはとてもいいことだと思います。

## 事例2

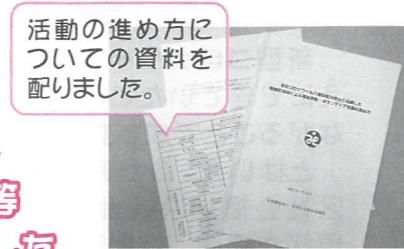
活動団体から…担い手にとって活動は生活の一部、ほかの団体がどうしているのか知りたい、会員、ボランティアの体力、気力が低下する…の意見



横のつながりを大切にしたい！

各地区でサロン交流会や会議等情報交換を行いました

担い手同士の意見交換・情報交換の場を設けることで、各団体がどのように活動を行っているか知ることができました。活動の目的を改めてみんなで確認することで活動への意欲を保ち、やり方についても検討することができました。



【本郷中央地区】

各地區  
開催の様子



【本郷第三地区】



【上郷西地区】



【豊田地区】



【笠間地区】



【小菅ヶ谷地区】

## 事例3 “ワイズコロナ”禍での活動再開

### 「積み木」さんの活動を紹介します

#### 一 感染防止を徹底して

新型コロナウィルス感染症の流行により、3月から5月まで全ての活動を休止しました。3ヶ月間の休止中は、会報や手紙を届けて利用者や担い手とのつながりを保ち続けてきました。6月後半、感染がいったん収束に向かった時点で、待って下さっている利用者の声に励まされ、配食サービスは週2回に減らし、拠点での交流活動は飲食なしの限定したやり方で、再開しました。

担い手には、健康チェック、消毒、マスク着用、3密を避ける等、感染防止に徹底して取り組みながら、できることを少しづつ再開していくことをお願いし、あくまでも個々の考えを大事にして参加してもらいました。高齢で辞められた方もいますが、ほぼ活動の再開を支持、協力して頂いています。

また、配食サービスでは、利用者一人ひとりに状況

を伺い、事情を伝えて必要度の高い方を優先させて頂きました。週1回のミニデイサロンでは、人気だった会食会やカフェは休止。3密避けた少人数での、楽しいひとときを過ごせるプログラムを工夫しています。

再開後の7、8月には再び感染が急拡大し、厳しい毎日が続きました。話し合いを重ね、感染防止を一層徹底して活動を継続する判断をしました。

11月からはケアプラザ調理室の使用が可能になり、週4回の配食サービスを再開。利用者からは「やっぱり積み木のお弁当は美味しい」との声が寄せられています。しかし、寒さと共に感染拡大の第3波がやってきました。活動を支える担い手の安全を第一に考え、皆が一致して協力し合えることを大事にして、今後の状況に対応していくと考えています。

(積み木 後藤)

#### ミニデイサロンの様子



簡単体操



映像で落語などを鑑賞

3密を避けるため  
2グループに分けて  
実施



配食サービス



拠点入口の衛生チェック



3密を避ける注意を掲示

#### 「ボランティア活動は私たちのまちの宝物」

横浜市社会福祉協議会では、コロナ禍においても住民の皆さんや関係機関・団体の皆さんと協力して地域づくりを進めていくため、リーフレットを作成して配布しています。

横浜市社会福祉協議会のHPよりダウンロードできますのでご活用ください。

検索：横浜市社協ポストコロナ

